

第9回自然と親しむ子ども山登り教室が始まりました！

★説明会(4月4日)

参加者 子ども3名、親御さん1名
スタッフ3名、会員(健常者)2名

第9回自然と親しむ子ども山登り教室の説明会を実施した。

今回は、2家族から問い合わせがあり、説明会に来ていただけたと思っていたが、どちらもキャンセルとなってしまった。しかし、当日、事前申し込みのない方の参加もあり、説明会は賑やかになった。

登山の進め方や注意点などを説明した後、NHK で取り上げられた時の山仲間アルプのビデオを見ていただいたり、過去の子ども登山教室のビデオも見ていただいたが、途中で

子どもたちはすっかり仲良しになり、和室を駆け回っていた。今日、参加した子どもたちは、小5の男の子2人と小4の女の子1人だった。



説明会に来た子どもたち

今回の説明会には来られなかったものの、すでに参加申込書を送っていただき、最初の陣馬山から参加する小4の男の子もいるので、淋しかった昨年と違って賑やかになりそうだ。

記：網干

★陣馬山(4月19日)

参加者 子ども4名
スタッフ6名
別働隊 会員(子ども1名、健常者3名)
親御さん2名



上を見上げる男の子たち

今年度の最初の山は、陣馬山だ。本隊の子どもたちは4人。スタッフが6人。親御さん2人。別働隊は障害のあるM君と大人3人となる。初めての子どもが2人で、昨年と違って賑やかになる。

藤野駅から相模湖行きのバスは、長蛇の列で、臨時バスが出た。それでも、全員乗り込めるかどうか微妙な感じ。すし詰めバスに全員がやっと乗り込むことができた。

途中でほとんどが下車し、和田には我々の他にひとりいただけだった。ここで、自己紹介と体操をする。妖怪体操ではなくて、まじめなラジオ体操第一。Aさんのリードで行う。

和田から少し歩いて、最初の登山口を登る。急なコンクリートの道だ。春らしい淡い色彩の木々が楽しませてくれる。足下には、タチツボスミレが咲く。子どもたちは元気に登っている。お父さん、お母さんももちろん元気だ。

M君が止まってしまったようだが、今日はIさんとEさんが面倒を見てくれている。また歩みが始まった。



陣馬山から見た生藤山

一の尾根に上がり、さらに登っていく。サクラが咲き、アケボノスミレやエイザンスミレ、それにヒトリシズカやミミガタテンナンショウも咲いている。ミツバツツジもまだ咲き始めではあるが、きれいなピンク色を楽しませてくれる。

エイザンスミレがきれいに咲く階段を登っていくと陣馬山の山頂に到着する。梢でホオシロがさえずる。子どもたちも元気いっぱいだ。

山頂には色とりどりのサクラがたくさん咲いている。その向こうに、生藤山が佇み、その右奥には大岳山が見える。ちらちら雨が降った時もあったが、すぐに止んだ。ここで昼食にする。Iさんが子どもたちに組み立てる飛行機のプレゼントを持ってきてくれた。みんなで飛ばして楽しむ。



陣馬山山頂にて

集合写真を撮った後は、山頂を後にして、明王峠に向かう。梅がきれいに咲いていた。淡い新緑の雑木林を歩く。M君も元気になった。明王峠を過ぎて、矢の音を巻く。大明神に登った後は、ぐんぐん下る。子どもたちもしっかり歩いている。途中で相模湖が見えるところで、小休止。



白馬の前で紙飛行機を飛ばす

与瀬神社に着いて、ホッと一息。相模湖駅に着き、子どもたちは、Iさんからアイスを買ってもらって大喜び。今回が初めての参加となるKK君も、MK君も、最後の燕岳まで全て参加するという。全ての登山が、好天に恵まれることを願わずにはいられない。記：網干



《参加者の感想》

今日は今期1回目の子供登山の日、陣馬山。YもKも朝早く起きてきて、行く気満々。ママの作ってくれたお弁当をリュックサックに詰めて、いざ出発。

電車の中で子供たちのリュックサックを仕分けしていたとき、雨具がないことに気が付き、あわてて傘を購入。これは大きな失敗。命取りになってしまう。わたしはずっと空気が気になってしかたなかった。スタッフのCさんやOさんが傘をかしてくれるとってくれてうれしかったです。しかしこんなことはあってはならないこと。数年の経験の中から出てくる傲慢。自然をなめちゃいけません。気が緩んだと反省しかり。次回は気を付けないといけない。お菓子でいっぱいになっていたリュックサックが頭に残る。

Yは人懐こいので初めて会う、MKくんにも笑顔で近寄っている。MK君のお母さんから「うちの息子は人見知りをするのでうれしかった」といってもらえた。KKくんとは子供登山説明会でやはりYと一緒に遊ぼうで仲良くなった。KK君は自然教室に通っているとのことで自然のことをよく知っている。大人たちが「そうなんだ」と聞いている。山では大人も子供もみんな変わらないんだと思う。子供も大人も疲れるときは同じ。おなかもすくし、のども乾く。子供たちの曇りのない、飾らない笑顔を見ながら歩く山は楽しい。

Iさんの「アイス」のキーワードが子供たち

を元気づけてくれたと思います。山頂での飛行機飛ばしも山ならでは。こういう遊びを今時代の子供たちはしってるだろうか？

心配だった雨も小雨がぱらっと降っただけで無事に相模湖駅に到着。早速Iさんに買ってもらったアイスを食べ、子供たちは満足そう。来月も頑張る、ずっと頑張ると聞いたわたしは目頭が熱くなってしまった。学校でもいろんなことがあるかもしれない。でも頑張る。踏まれてもまた起き上がり、頑張る、その気持ちはちゃんと育まれている、そんな気がしています。

リーダーはじめ、スタッフの皆様、参加者の皆様ありがとうございました。今年もお世話になります。記：S. Kさん



今回初めて参加させて頂いて登った陣馬山は、以前から高尾山から縦走してみたいと思っていた山でした。

これまででは子供と2人で、鳥のさえずりを聞き、時折道端の花や草などに目を留め、うっそうとした木々を見上げ、すばらしい展望に感激しながらいくつかの山々を歩いてきました。

それはそれで楽しいのですが、登山教室ではさらにこれまで名前を知りたくてもわからずに通り過ぎていた小さな花々の名前を教えて頂き、雑草と思われた草の名前を教えて頂き、こんな小さな植物にも名前はあるのだと驚きながら歩きました。陣馬山で覚えたのは、ひとりしずか、やぶれがさ、しゃが、えいざんすみれ(?)などです。

名前がわかると、さらに楽しさが増すように

思います。

子供は、花よりも友達と一緒に登るという事が何よりも楽しかったようです。

用意して頂いた飛行機を飛ばして遊んだ時もすごく楽しそうでした。私と2人の登山とは違った楽しさが、いろいろ詰まっていると思いました。残りの山々も、親子ともに楽しみにしています。

★御岳山(5月17日)

参加者 子ども1名
スタッフ5名

別働隊 会員(子ども1名、障害者1名、健常者7名)

親御さん1名

今年の「自然と親しむ子ども山登り教室」2回目の登山は、奥多摩の日ノ出山から御岳山縦走。



急坂を登ってきたMK君

3人の子どもたちは、前日に予定されていた運動会が雨のため今日に変更になり、不参加となった。子どもは、MK君と別働隊での参加となるM I 君の2人。これ以上ない好天が迎えてくれた。

ています。

記：M. Kさん (K君のお母さん)

コースタイム

和田(9:50)…陣馬山(11:35-12:20)…明王峠(13:10-13:20)…矢の音(13:55-14:00)…相模湖駅(15:20)

上養沢でバスを降り、自己紹介。Fさんの指導で体操をして出発する。

青空の下で若い青葉が映える。川にはニジマスが泳いでいる。カワトンボが石の上に止まっている。少し車道を歩いてから登山道に入る。



新緑のカエデの林

今日は、登りの方が急坂だ。今日は夏のような暑さになっているので、水分補給をしっかりとする必要がある。休憩も少し短めの間隔で取っていく。養沢鍾乳洞跡で休憩する。そこからは今まで以上に急坂になる。大きな岩を縫うように付けられた登山道をぐんぐん登っていく。MK君は元気いっぱい。M I 君も男性陣が交代でサポートしている。

金比羅尾根に上がると伐採地になっていて東京方面の展望が開ける。西武ドームも見えていた。伐採地を回り込むように歩き、さらに行くと丸太の階段が続く。植えられたツツジもきれいに咲いている。シャクナゲも咲いていた。最後の急階段を登ると、日ノ出山山頂に到着する。ホオジロが元気にさえずっていた。

日ノ出山山頂で昼食タイムとする。近くの大

岳山が堂々としたたたずまいを見せている。その左手には遠く丹沢の山々が見える。山頂の岩に乗ると、六ッ石山の向こうに鷹巣山、その左奥に雲取山も見えている。今日は好天に恵まれ、展望もすばらしい。



写真を撮った後は、御岳山に向かう。広く歩きやすい登山道が続く。CさんとM I君が先頭で腕を組んで歩いている。ほほえましい光景だ。



数年前の子ども山登り教室で来た時は、御岳山の手前で雷が鳴り始め、雨も降ってきたので、御岳山の山頂にはよらずケーブルカーで帰ったが、今回は好天なので御岳山の山頂まで行くことにする。

しかし、ここは御岳神社の参道になっているため、石の階段が続く。石の間から扉を開けて覗いているような鬼の彫り物が楽しませてくれる。

御岳神社本殿の裏側に山頂標識があった。全員で、「アーン」をして集合写真を撮る。本殿の横で休憩していると、すぐ近くの木にヤマガラがいた。帰って写真を見たら、青虫をくわ

えていた。これから巣に戻って、ヒナに与えるのだろうか？



御岳山山頂を後に、宿坊を縫うように歩いて行く。そして、急なコンクリートの道をひたすら下る。杉の巨木がすばらしいところだ。杉の根元にはアリジゴクがたくさん巣を作っている。砂のくぼみの中心にいるアリジゴクを捕まえてMK君に見てもらおう。初めて見る人も多かった。無数にあったけど、こんなにアリがたくさん来てくれるんだろうかと心配になった。



足がいたくなかった頃、ようやく滝本のバス停に到着した。バスを1本遅らせ、全員座って御岳駅に向かうことができた。夏のような暑さの中、お疲れ様でした。 記：網干

コースタイム

上養沢(10:30) … 養沢鍾乳洞跡(11:10-11:20) … 金比羅尾根(11:50-12:00) … 日ノ出山(12:20-13:10) … 御岳山(14:00-14:05) … 滝本(15:20)

第9回自然と親しむ子ども山登り教室感想文（第1回陣馬山）

みんなで登山をしたらとてもたのしくのぼれたけど、ぼうをつかったりして「あっおじいさんだね」といわれてちょっとくやしかったです。でもそのぼうのおかげで、ちょっとつかれる早さがおそくなったような気がしました。それでも少しきつかったです。障害者の人はとちゅうでぼくのひこうきをうばって道ではないところにとばしたときいやな気持ちになったけどやっぱりおもしろい人だなと思いました。おじさんにひこうき（おもちゃ）をもらったときはとてもうれしかったです。いまでも家の中でひこうきであそんでいます。第2回の登山もかならずいきたいです。アイスクリームもおいしかったです。 K.K君

きのうのお山、たのしかったです。

ぼくはAさんとお山いくのをたのしみにしていました。朝6時20分にでたのでねむかったです。でもふじのてKKくんとMKくんとやまにいけてよかったです。KKくんとMKくんとあうのははじめてでした。

でもいっしょにお山にのぼれてよかったです。またKKくんとMKくんとお山に行きたいです。Aさんとつぎのお山まであいたいとおもいます。

お山はKKくんとMKくんといっしょにいつてつかれました。でも、がんばっておばあちゃんがおうえんしてくれたのでのぼれました。 Y.K君

きのうわたしは、おばあちゃんとおにいちゃんとわたしとで行きました。さいしょは、おばあちゃんとおにいちゃんとわたしで行きました。おひるのときでした。おべんとうがとてもおいしかったです。あのまあくのおかあさんに、ういんなあを2たつあげました。さいしょわおにぎりを食べました。

かえりにあいすを1さんにかってもらいました。わたしは、バナナをかってもらいました。とてもおいしかったです。でもひこうきがとてもたのしかったです。1さんととてもありがとうございました。かえりに、でんしゃでおやつを食べました。ポテトを食べました。いっかいきゅうけいで、たまごを2つ食べました。おいしかったです。かえりにでんしゃの中でおやつを食べました。

Aさんほんとうにありがとうございました。1さんもありがとうございました。Sちゃんもありがとうございました。でもゆうすけくんがとてもがんばってたところがよかったとおもいました。 K.Kさん

山行報告

★那須岳(2月28日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

今回の那須岳は、3月1日に予定していたが、サポート不足で苦しんでいた。冬山に行かれる人自体が少ないので、もともと実施することが難しいのだが、何とか調整できないかいろいろ考えてみた。

そこで、サポートできる人で土曜日なら参加できる人がいるかどうか、すでに参加申し込みしていた方には変更が可能か確認した。すると土曜日なら参加可能の健常者の人がひとり、土曜日は無理という視覚障害者の人がひとり。その結果、土曜日なら私を含めて6人、日曜日なら4~5人になる。そこで、考えに考えた末、土曜日にするか日曜日にするかは、天気予報で決めることにした。どちらかの曜日に固定して、決めた曜日が悪天で、別の曜日が好天になると、滅多にないチャンスを無駄にすることになるため、最も公平な天気予報に従うことにした。参加予定のみなさんにも、理解していただき、今回、好天に恵まれた土曜日に実施できた。



天気予報では、午前中は風が強いが午後には収まるとのこと。黒磯駅に着くと、晴れているが、まだ那須岳の山頂付近は雲に覆われて見えない。

大丸温泉で、アイゼンなどを付け、出発準備。那須の茶臼岳は、山仲間アルプで冬に2回実施したが、2回とも強風などで途中で引き返している。今回は、好天に恵まれたので、できれば登頂したい。

出発前に、耐風姿勢をみなさんに覚えてもらう。両足とピッケルで△を作り、重心を低くし

て安定した形を作る。おしりを突き出してちょっと？という人もいたが、ある程度形になったので出発する。

トレースはしっかり付いている。途中で、車道を歩いたり、横切ったりする。ロープウェイの山麓駅を過ぎ、峠の茶屋の下の駐車場を通過する。駐車場も雪原のようできれいだ。登山口にある鳥居は、足の部分が雪に埋もれて、上の部分が腰くらいの高さになっている。視覚障害者のFさんは、鳥居があると聞いて上を見ているが、下にあることを知って驚いている。

登山道は樹林帯に付いている。時折、風花が舞うが、日も差している。那須岳や朝日岳の山頂部も見えるようになってきた。

森林限界付近から次第に風が強くなるが、冬的那須にしてはそよ風程度。さらに登ると、峰の茶屋が見えてきた。



峰の茶屋に着くと風はあるが冬的那須岳としては非常に弱い。避難小屋の脇で昼食タイムとする。これから登る茶臼岳は、無間地獄側からいつもながらの蒸気が噴き出している。



山頂への道も、雪が風で飛ばされて積雪は非常に少ない。トラバース気味に登ってお釜の一角に立つ。案内板は、山頂への矢印が右側になっている。山頂の祠は左側に見える。ロープウェイの駅を左とすると、その次の登山道を行くと考え、案内板が間違っていないとも言えるが、間違える人もいるだろう。先に案内板を作ってしまったから、それを使うしかなかったというところだろうか？

山頂に到着すると、360度の展望。北側には、朝日岳や三本槍岳が見える。その左には、流石山や三倉山方面、その左手には、遠く上越の山々がうっすらと見えている。南側に目を転ずると、大佐飛山とその奥に高原山などが見える。日光の山もうっすらと見えていた。



山頂で写真を撮って、お釜を一周する。途中で、エビのしっぽがびっしり付いた岩があった。風が強いことを物語っている。



下りは順調に峰の茶屋跡を過ぎ、樹林帯へと入っていく。タクシーを呼んで、下って行く。大丸温泉に着くと同時にタクシーが来てくれ

た。過去に3回来た冬的那須岳ですが、初めて好天に恵まれました。山の神様のおかげか、脳天気な人のおかげか、どちらにも感謝して、タクシーに乗り込んだ。記：網干



《参加者の感想》

空は青く、隣の朝日岳はきりっとそびえ立ち、あとは、那須岳頂上の雲が流れたら・・・

そよ風と行っても時々体が揺れる。道は、ところどころ雪がない、温泉がわき出ている暖かい所なのか、風で雪が飛ばされているのか？

段々風がやんできた。やった！！ 頂上です！！周りの雲は、なくなり青空です。バンザイ バンザイ！！

またまた、リーダーをはじめ皆様のおかげで、素晴らしい眺望を見ることができ、楽しい冬山を体験することができました。ありがとうございました。

そして会員の皆様、この山の山行に参加させていただきありがとうございました。

記：Y.Fさん

先週は上越の山で重い雪に足をとられながらも雪洞を楽しんで・・・

また来てしまった、雪山、今日は那須岳。今日は荷物は軽い。やっぱり荷物が軽いと気持ちも軽くなる。わたしの住む地元では美味しいと有名な小麦まんじゅうをみんなにさっさと渡して、さらにザックは軽くなる。あんこは重い。それを人はエネルギーに変えるんだから重いはずだ。

車中からみた那須岳は山頂もどんよりして、風が強そうだなと感じた。先週と同じスタイル。違うのはワカンではなく、アイゼンであること。山岳救助隊の研修をやっていたようで、みんなヘルメットをしている。最近では普通の登山者もヘルメットをしている人が目立ってきた。最近買ったジャケットもヘルメットをかぶってもかぶれるフードなので大きい。

登山口すぎたあとすぐに現れる狍犬のいる鳥居が埋もれている。どれだけ積もっているかがよくわかる光景。すごい。

岩ゴロの道も雪があって歩きやすい。風が強くなってくると雪も消えてくる。氷まじりの登山道をアイゼンをひっかけないように歩く。雪のトラバースもでてきて、そのときはピッケルを持つ手も意識して気持ちも変わる（ピシッ）

峠の茶屋跡地を見ると人が建物に張り付くことなく立っている。風はおだやかならしい。リーダーはそよ風といっている。雪山でそよ風という言葉が合わない気がしたけど、まさしくその通りで、穏やかだった。

山頂までは温かい日差しをうけて歩けた。山頂は風が強かったけど、急いで万歳万歳。御鉢めぐりをしてそよ風を受けながら元来た道を下山。岩まじりの道をアイゼンで歩くのに疲れ

たのでリーダーに承諾を得て、アイゼンを外して下山。自由を取り戻したわたしの足。滑りながらも一度転んだだけで無事に下りてくることができた。

先週の上越の雪と比べてさらさらしている。ここでは雪洞はできない。雪洞は上越または北アルプス北部でしかできないといっていたリーダーの言ってることがよくわかった。先週の雪は水分が多く、一步一步が重く感じた。今回は足取りは軽く、雪を蹴って歩いているように感じた。自然はいろんなことを教えてくれる。

救助隊の方がここで救助のために訓練している姿を拝見することができたことは貴重な出会いでした。「午後から晴れるから気を付けていってきてください」といった言葉とあの笑顔が思い出されます。参加者の皆様、お世話になりました。また笑顔で会えることを楽しみにしています。

記：S.Kさん

コースタイム

大丸温泉 (9:40) … 峰の茶屋跡避難小屋 (11:30-11:55) … 茶臼岳 (12:40-12:50) … 峰の茶屋跡避難小屋 (13:20) … 大丸温泉 (14:40)

★笠山・堂平山(3月8日)

参加者 会員(障害者4名、健常者8名)

今週は月曜日から天気が気になって仕方なかった。一緒にいく予定になっている、孫たちも毎日天気予報を知らせてくる。

“春に三日の晴れなし”ということわざがあるそうで、この時季は天気マークだけでなく予想気温の確認をとっている。そのことわざどおり、日曜日は曇りマークではあったものの、

しっかり雨。気温も4~5度と低い。雨具を着込んで、まずは皆さんにご挨拶して、ひとりひとり声をだしてもらった。天気がずっとこんな感じだったらどうしようと不安な気持ちを抱えながらスタート。

皆谷の集落をでて、林道から登山道。また林道と2回ほど繰り返しながら東屋のある萩平へ出る。そこで少し休んでいたが、雨に濡れて露出してる手、ほおが冷たくなってくる。すぐに歩き出し、T字路から笠山へ向かう登山道へむかう。

外秩父縦走の案内板がそのままあるので道

に迷うことはない。樹林の中に入ると雨がやんだのかと思うが、空けるとやはり冷たい雨が降っている。歩いていないとびるびる震えてしまう。Kも少し止まっただけでびるびる震えている。Aさんが心配してくれている。手袋を替えて、また元気になってすたすた歩きだした。手先が冷たくなるとやる気もなくしてしまう気がする。手袋を替えて暖かくなっただけでも元気が出てくる。



笠山山頂にて

震えていたKも「山が好き～」といていたので私はとてもうれしかった。そろそろおなかですいたなと思ったら、笠山に到着。雨も弱くなったようなのでここで昼食をとる。カップラーメンがとても美味しい。暖かいものを見ただけで体温が上がると聞いたがその通りだなと感じた。

おなか満腹になると体は暖かくなる。幸せな気持ちになって次なる山堂平山へむかう。峠へ下ってからまた登ることになる。下りは滑らないように注意しながらあるいてもらう。道はどろどろ道で、足がとられてしまう。バランスが大事。Fさんが大きな声で叫びながら転んでいる。傘を持ちながらでは危ない。どろんこになった傘をしまってもらおう。

子どもたちはバランスがいい。警戒しながらも走りながら危険区域をクリアしている。Mくんもバランスがいい。転んだ姿をみていない。Aさんのロープにつかまったり、Kさんと手を組んだりして、とても楽しそうだ。

子どももそうだろうが、変化のない林道を長

く歩くより、これはやばいぞ、どう歩こうかと思いつきながら歩くのが楽しい。



笠山から急坂を下る

林道を横切る峠から堂平山までは緩やかな登りで芝生の張った広い場所にてた。雨に濡れていなかったら、寝そべりたいくらいのもとても広い芝生だった。目の前に展望台が現れる。トイレ休憩をするところに雪と氷があって、子供たちのいい遊び場になってしまった。大人も子供もむきになって雪投げしている。雪投げに夢中になり氷の上を走ってYはすってんころりん。それでも立ち上がりやすかった。子供は身軽だ。



堂平山山頂にて

小高い丘にあがったところが堂平山山頂。ここには見えるものが写真にのっている。富士山なども見えるらしい。(晴れていれば)そこから剣ヶ峰はすぐそこ。急な階段(今日の核心部?)を登って、剣ヶ峰。今日は三つのピークを踏んだ。

急な下りをしばらく歩くと白石峠。ここにも東屋がある。縦走大会をする場所だけにそういう施設はちょうどいいところにある。外秩父七

峰縦走 5 年ほど前にいったことがある。忙しい山歩きだった。足の五本の指にまめができてゴールしてから駅までの道のりがつらかったことを思い出す。

白石峠から白石車庫までは 3 分の 1 は登山道、それからは林道になる。ほっとしたところで AKさんと歩くことができた。白石車庫についてどろどろになった雨具やスパッツ、登山靴を洗って、バスに乗り込む。雨に降られた山行だったが、充足感の残る山行だったように感じた。初めてあった Mくんと Y、Kも仲がよくなったようで、バスの中では 3 人でお菓子をほおばっていた。

二度目のリーダーボランティアでしたが、やはり反省点は多い。いまひとり反省している。あの雨の中、けがもなく、みんなが下山できたのは皆さんの気配り、心くばりがあってこそです。次は隣の大霧山から皇鈴山へと縦走してみたいと思いながら小川町をあとにした。雨はすっかり上がって空が明るくなっていた。みなさんお疲れ様でした。

ここからは個人的な感想ですが、Y、Kもあのぐちゃぐちゃの歩きにくい道をよく歩きました。雨の中を歩かせるのは、ちょっととためらっていたわたしの思いとは別に、彼らは雨の中でもなんのその、わたしの心配は余計なものでした。大事に大事にして燕岳にもっていかうと思ったわたしの考えは間違っていたようです。いろんな人に助けられて、終えたことに、感激しております。

Iさんのお母さんが雨の中、山に来れること自体、快拳といって涙ぐんでました。出来なかったことができる。うれしいことです。雨ではいけないという設定が出来上がっていたのかもしれないですね。Y、Kもママから雨だよと言われてましたが、雨具を用意しているのを見て覚悟して臨むのだなと思ってみました。いつまで、一緒に歩いてくれるかわかりませんが、

なにか嫌なことがあっても山に登ったこと、頑張ったことを思い出してほしい、そう思います。なによりも健康で登れることが一番素敵なことなんだということだと思いますがそれはこれからわかっていってこれればいいなと思います。 記：柏樹

《参加者の感想》

突然参加すみませんです。でも、久しぶりの方と、新しい方にあえて良かった！良かった！なかなか止みそうもない、でも、以前歩いたことがあるからと少し余裕で歩き始めました。

しかし、だんだん 道は粘土質で滑りやすくなり、さほど急でない登りも滑る。私の手袋はどろどろに、雨具もドロドロに。手に持っていた、刺したり閉じたり折り畳みかさも、どろどろに……「こっちの方が滑りにくいですよ」という声の中、何とか笠山山頂に着く。雨は止んでいた。でも寒い。Kさんが持ってきてくださったイチゴは、原型を保っていました。転んでいたのですね？

手を吹き、簡単に昼食を食べ気を取り直して堂平山へ進む。今度はあまり滑らない。山頂で、手を洗い靴も洗いほっと、しかしあと少しのところ、また滑ってしまった。

リーダーのおかげでバス停には早く着き、もう一度手を洗い、雨具を脱ぎ洗い、靴も洗い着替えてほっと！！

そして帰りの電車は、勿論、皆さんと話に花が咲き、ドロドロになったことなんてなんのその、になっていました。 記：Y、Fさん

コースタイム

皆谷(9:44) … 萩平(10:22-10:30) … 笠山(12:05-12:35) … 堂平山(13:50-14:20) … 剣ヶ峰(14:40) … 白石峠(14:55-15:05) … 白石車庫バス停(15:50)

★神成山(3月22日)

参加者 会員(障害者3名、健常者6名)

高崎駅でJRから上信電鉄に乗り換える。今日は、とても暖かく、電車の中では暑すぎて防寒着などは全て脱ぐ。車窓から今日登る神成山が見える。標高は低いが、西上州の山らしく、しっかりした岩山だ。

名前がおもしろい南蛇井(なんじゃい)駅に降り立ち、自己紹介を行う。今回が4回目のM君は今日も楽しそうだ。すっかり打ち解けている。駅の花壇で早くもオキナグサを見つけた。

ダウンロードした地図を頼りに車道を歩く。踏切を越え、上信越自動車道の高架の下を歩いて畑の中の道に行く。少し遠くに、数年前に登った鍬柄山が見える。尖ってすごい岩山だ。鎖の連続するあの山を全盲のMさんも一緒に登ったことを思い出す。

大サボテンの家の横の道を登っていく。日本一整備された登山道と呼ばれるだけあって、岩山だが比較的歩きやすい。久しぶりに参加したEさんがM君と手をつないで登ってくれている。



オキナグサ

展望の良い所に出るとそこは吾妻山というピークだった。下仁田方面の展望が良い。しかし、尾根の両側は切れ落ちている。特に南側は、断崖絶壁なので要注意。

さらに登っていくと非常に展望の良い所に

出た。足下を見るとオキナグサがたくさん咲いている。ここで写真タイム。かわいい上信電鉄の電車も走っていたが、花を優先したため、電車の写真は撮れなかった。

いくつかのピークを巻きながら越えていく。神成山は9つのピークからなる連山だ。どこが一番高いのかよく分からず、12時になった所で昼食タイムとする。旧宇芸神社跡山頂と書いた標識がある。書棚のようなミニ博物館もあった。ここでようやく上信電鉄の電車の写真を撮る。



上信電鉄の電車が行く

道標の付け根付近にいくつかシュンランを見た。稜線ではミツバツツジも咲き始めていた。

竜王ピークに着くとここも展望が良かった。Y君とM君が抱きついたりして遊んでいる。Y君の優しさには感心する。



竜王ピークにて

竜王ピークを過ぎると、急に標高を下げていく。広い神成城址本丸跡を過ぎ、広くて歩きやすい登山道を緩やかに下っていく。足下には、スミシの花が咲いている。一つはアカネスミシ

と思うが、他はよく分からない。



目の前に大きな建物が見えてきた。市立西中学校の体育館のようだ。ここからは車道を歩き、宮崎公園を過ぎて、神農原駅に向かう。計画より1時間半も早かった。早く着いたので、希望

★夕焼け小焼けの里(3月29日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)

事前の天気予報では、日曜日は曇り時々雨だったが、前日には雨の振り出しは夕方という予報に変わった。京王線の車窓からも青空と共に真っ白な富士山が見えた。気温も高くぽかぽか陽気。

夕焼小焼でバスを降り、自己紹介の後、中山雨紅の歌碑を見に行く。道路を渡ってすぐある案内板にしたがって、坂道や階段を登っていく。歌碑は宮尾神社内にある。歌碑の前で、みんなで「夕焼小焼」を歌って、引き返す。



者だけで途中下車し、富岡製糸場を見学することにする。初めて見る世界遺産だった。若い女性たちがここで満足に休みももらえずに、ぼろぼろになるまで働いていたことを思うと、悲しい気持ちになる。そういう時代があったことを心にとどめる為には重要な遺産のように思う。

記：網干

コースタイム

南蛇井駅(10:30)…大サボテンの家(10:55)…吾妻山(11:10-11:25)…旧宇芸神社跡山頂(12:00-12:40)…竜王ピーク(13:00-13:10)…私立西中学校(13:40)…神農原駅(13:55)

夕焼け小焼けの里は入場料が必要だが、ハイカーは中を通り抜けさせてもらえる。沢筋にはダンコウバイがたくさん咲いている。アブラチャンだと思っていたが、帰って写真を調べると、花枝がないので、ダンコウバイだったことを知る。

登山道の脇には、ヨゴレネコノメやカンアオイ、アオイスミレなどが咲く。もうすっかり春だ。尾根に上がってしばらく傾斜の緩いところをアップダウンしていくと、黒ドッケへの最後の上り坂にかかる。



黒ドッケに予定よりも30分早く到着。ここで昼食タイムとする。ここまで、登り初めてすぐ、トレランの女性ひとりに会ったがそれ以外

は誰にも会わず、人の多い高尾にしてはとても静かな山歩きとなった。さすがに北高尾山稜に上がると人もいる。黒ドッケで2パーティーに会った。



黒ドッケにて

稜線上からは景信山が近くに見える。そしてどんどん近づいていく。この山稜はアップダウンが多い。黒ドッケで集合写真を撮り忘れたので、次のピークで撮る。足下にはよく分からないスミレも咲いていた。まだ土から出て間もないヤブレガサが何本かあった。このくらいならまだ食べられるだろうか？ シュンランもたくさん咲いていた。

小下沢林道への分岐に到着し、休憩せずそのまま下って行く。少し急だが、Mさんもがんばって下っている。10数人の高齢な人たちのパーティーが「80歳の人もいるので遅くてごめんなさい」と言って下って行った。

小下沢に下りると、すぐに沢に行く。ハナネコノメはすでに赤い葯を落として、被写体としては物足りなかった。だが、ニリンソウの写真を撮らせてもらう。

林道はみなさんに先に行ってもらい、途中で沢に下りてハナネコノメを探す。何とか赤い葯の付いているものを探し出せた。

★上州三峰山(4月26日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)



ハナネコノメ

林道脇には、ヤマドリソウやエイザンスミレも咲き、早春の草花たちが一斉に開花したようだ。

空模様が怪しくなる頃、木下沢の梅林に着く。その付近だけが別世界ではないかと思われるくらい、白やピンクの満開の梅が楽しませてくれた。バス停に着くと同時くらいに雨が降り始めた。

天気も味方してくれて、春爛漫の一日を楽しめました。参加したみなさま、お疲れ様でした。

記：網干



ヤマドリソウ

コースタイム

夕焼小焼(9:30-中村雨紅歌碑往復-9:50)…
黒ドッケ(11:30-12:10)…小下沢(13:55-14:10)…日影(14:55)

今日は素晴らしい天気にも恵まれた。しかし、やはり春だ。春霞の影響で車窓から富士山は見えなかった。

沼田駅を過ぎると今日登る上州三峰山が見

えてくる。この山に登ったのは、もう20年くらい前だろうか。滅多に登る山ではないが、上越線の車窓からよく見える山だ。

沼田駅からタクシーで河内神社の下の駐車場まで行く。この付近は、桜がきれいだった。いつものように自己紹介をして登りはじめる。まだ林道になっているところを車で上っていく人がいる。誰かが聞いたら、これはパラグライダーをする人のための輸送だということ。このすぐ上にパラグライダーの発着所がある。上空にはパラグライダーの人たちが多数舞っている。

河内神社で山の安全を願い、登っていく。しかし、急な登りは神社まで。ここからは緩やかな稜線が続く。周囲は赤松林が主体だった。秋には松茸が生えるのだろうか？



新緑と赤松、足下にはいろんな花が見られる。主体はスミレの仲間。タチツボスミレやアカネスミレは分かるが、分からないものが多い。ジュウニヒトエやショウジョウバカマ、シュンランも咲き、山頂直下にはカタクリの群落がある。今年初めての出会いだった。

山頂に着くと、20年前は全く展望がなかったが、谷川岳が見えるように刈り払われていた。人間の傲慢さを感じるが、すばらしい谷川岳に出会えて、やっぱりうれしく感じる。自分も傲慢なんだろうな。仙ノ倉山までの国境稜線や上州武尊山もよく見える。ここで昼食タイムだ。

集合写真を撮って、山頂を後にする。少しだけ片側が切れたところがあるが、それ以外は広

い尾根に付けられた歩きやすい登山道が続く。下りは、三峰沼を經由して後閑駅まで歩く。三峰沼近くでは、シロバナノエンレイソウが咲き、ミズバショウも咲いていた。どちらも今年最初の出会い。展望とお目当ての花に出会えて、とてもラッキーだった。



少し急な登山道を下り、麓へと下りていく。少し汗ばむくらいの陽気だった。麓には菜の花が咲き、モンシロチョウやモンキチョウが舞う。ベニシジミも見ることができた。

舗装道路を歩き、足がいたくなり始めた頃、上越線の線路が見えてきた。振り返ると、谷川岳が午後の日差しを受けて輝いていた。

記：網干



《参加者の感想》

今日は、西上州の三峰山へカタクリと水芭蕉を求めて出発。

カタクリは日差しをあびて元気よくせりあがってました。体操選手のように。Fさんに近くのカタクリを触ってもらおうとこれは若くないなといっている。カタクリの年齢までわかって

はずばらしい。

山頂までは無難な道がある。あそこがピークかと思いきや、まだ先にピークがある。森の中を歩いていると心が休まる。鳥が鳴いている、リーダーの口からいろんな名前が出てくる。うれしそうに話すのでこちらもうれしくなる。そういうことがリーダーの一番の役目なのかなと思う。盛り上げ隊=Aリーダー。お疲れ様です。

今年初の水芭蕉も見られ、白く可憐な水芭蕉はおとなしい。見習いたい。今回の山はすごく不思議な異空間を感じさせる山でした。見上げれば谷川連峰と武尊山。まだまだ白い頂きがずらりと並んでいる。ためいきがでる。

疲労はその日を生きたあかし。癒し系の静か

★鹿俣山(5月24日)

参加者 会員(障害者1名、健常者4名)

日曜日の天気予報が次第に良くなり、当日は降水確率10%になっていた。雲は多いものの、青空が多くを占めている。今回は、参加者からの提案で、初めてレンタカーを利用する。Kさんの運転だ。



無事に玉原高原のセンターハウスに到着し、トイレを済ませて出発する。すぐ近くでキビタキがさえずっている。探すが見つからず、歩き始める。今回は、少人数だったため、予定を少し変更して、玉原湿原に立ち寄っていくことに

な山でした。

記：S.Kさん



コースタイム

河内神社下駐車場(9:55)…河内神社(10:20)
…下山コース分岐(11:05)…上州三峰山
(12:40-13:10)…三峰沼(14:25-14:40)…
後閑駅(16:40)

する。湿原にはタムシバがたくさん咲いている。ムラサキヤシオも咲いている。足下にはミズバショウも咲いている。



湿原から水源ルートを行くつもりだったが、少し道を間違えて遠回りしてしまう。しかし、すばらしいブナの林を楽しむことができた。キビタキが近くでさえずっている。何とか見つけることができたが、他の人は見つけられなかったようだ。

長沢の三角点付近で昼食タイムとした。しかし、時間がオーバーしているので、20分で終わる。周囲はハルゼミの合唱だ。1本のブナの木に、ハルゼミの抜け殻がたくさん付いている。

ブナは多くの生きものを育てているのだろう。



次はブナ地蔵が現れる。ブナの根が盛り上がって、お地蔵さんが佇んでいるように見える。不思議な現象だ。次は沼田の名木百選に選ばれているシナの木が現れる。すらりと伸びた太い幹が力強い。

探鳥路の分岐を過ぎ、さらに登っていく。この付近からようやく標高が上がっていく。やがてスキー場に出る。樹林が払われているため展望も良い。谷川連峰もよく見える。蓬峠から武能岳、一ノ倉岳、谷川岳のオキの耳とトマの耳、オジカ沢の頭、万太郎山、仙ノ倉山まで見える。朝よりは曇っていたが、展望はますます良かった。

登山道脇には所々雪田が残っている。スキー場を過ぎて山頂直下を登る。ピンク色の濃いスミレやムラサキヤシオなどが咲く。山頂に着くと、上州武尊山が間近に見えた。谷川連峰は、木々が遮って見えなかった。



下山は来た道を少し戻って、シャクナゲの咲く少ピーク方面に行く。足下がやや崩れているところがあって、注意して下る。少ピークに登

りはじめるとすぐにシャクナゲの花が見つかった。アズマシャクナゲだろうか？

尾根上を順調に下り、道なりに進んでいくとラベンダー畑に出た。夏は、紫色に染まることだろう。周囲は、野鳥たちの歌声がこだまする。コルリ、キビタキ、ヒガラ、センダイムシクイ、今回は他にもツツドリ、ホトトギス、カッコウのトケン類も聞かれ、アカゲラのドラミングも響いていた。



スキー場脇の小さな沢にはミズバショウやリュウキンカが咲いていた。リフトの下に付けられたトンネルをくぐり、ブナの林を歩いてセンターハウスに戻る。最後は、地蔵温泉の露天風呂で汗を流して、帰途についた。

記：網干

《参加者の感想》

今日はブナの森で知られる、玉原高原の鹿俣山へ。緑豊かなブナの森に入ると先ほどまでの舗装道路とまるで違って、思い思いに手を広げた木々に招かれ、森の中へどっぷりつかっていく。空気が変わる。人も変わる。こんな静寂さ、私は好きだ。子供たちとの賑やかな山歩きもいい。結局、山にいればそれで幸せなのかもしれない。静かな森に野鳥がいろんな声で鳴いていた。

鹿俣山に僕もいきたいといっていたYの声がか・・・「せっちゃん、せっちゃん、せっちゃん」と早口で呼んでいるように聞こえる。おかしくて笑ってしまった。家にいるようだった。Yに聞かせてやりたかった。なんという鳥なん

だろうか？

ぎりぎり間に合った水芭蕉。やや大きめだったが、花が咲いていてよかった。鹿俣山からまだまだ白い雪の残った谷川連峰を眺める。遠くへ行ってしまう仲間と歩いた谷川連峰の山々を見ていたら感極まってしまった。

今日の反省：電車はぎりぎりの時間ではいけない。最寄りの駅で遅れがあって、皆が乗る電車に乗れず、新幹線に乗る羽目になってしまっ

★甲武信ヶ岳(5月30日～31日)

参加者 会員(障害者2名、健常者8名)
会員外(障害者1名)

☆5月30日

今回は、早朝に都内を出発しても甲武信小屋への到着が遅くなることが予想されたため、前日に塩山まで来て泊まり、塩山を早朝出発することとした。

すごいスピードで飛ばすタクシーの運ちゃんに身を任せ、西沢渓谷入口で下りる。天気も良く、さわやかで気持ちよい空気に包まれる。今回は聴覚障害のあるWさんが初参加だ。KRさんも久しぶりの参加となる。

西沢渓谷に向かう林道を進む。ねとりインフォメーションでトイレを済ませて、林道を少し歩いたところから近丸新道に取り付く。徳ちゃん新道は近丸新道との合流点手前に瘦せた岩尾根があるため、近丸新道を選んだが、こちらは沢に沿った登山道のため、何力所か片側が切れて滑りやすい箇所もあったため、徳ちゃん新道の方がまだ危険度が低かったかなと反省する。しかし、みなさんの適切なサポートのおかげで危険箇所も順調に通過する。

古いトロッコの軌道があるが、昔の人は良くこんなところに軌道を作ったものだと感心す

た。痛い出費だったが、あのはくたかに乗ることができた。27分の贅沢な時間でした。

記：S.Kさん

コースタイム

センターハウス駐車場(11:20) … 長沢(12:20-12:40) … ブナ平(13:00) … 鹿俣山(14:10-14:30) … センターハウス駐車場(16:05)

る。こんな山奥まで入らなければ良い木がなかったのだろうか？



ようやくトラバースが終わり、又ク沢にかかる小さな木の橋を渡る。そして戸渡尾根に登る急坂の尾根に取り付く。新緑にヤマツツジが映える。オオルリやミソサザイの声が山中にこだまする。



登るにつれ、木々の間から富士山が見えるようになり、ヤマツツジに代わってミツバツツジが咲くようになる。そしてこの山の主役、アズ

マシャクナゲが咲き始めてくる。樹林の切れたところからは黒金山や国師ヶ岳も見えるようになってきた。

戸渡尾根の徳ちゃん新道との分岐に 10:05 に到着。シャクナゲはここからが本番だ。ルリビタキやメボソムシクイなどの声を聞きながら登る。聴覚障害のWさんには、KSさんとEさんが対応してくれる。



シャクナゲのトンネルは1時間以上続いたのだろうか？色の濃い花や薄いピンクの花、それぞれの個性で咲いているようだ。Nさんが初めて足をつる経験をしたが、Eさんの持参している漢方薬ですぐに快復した。



展望の良い岩場に出る少し下で、シナノコザクラを見つけた。とてもラッキーだったが、一歩間違ったら転落してしまう危険なところに咲いているため、正面から花を撮ることはできない。KRさんが私の腕を持ってくれたので、少し身を乗り出して写真を撮ることができた。

展望の良い岩場からは、国師ヶ岳や朝日岳、金峰山が良く見える。足下にはコイワカガミも

咲いていた。林床にはコミヤマカタバミやバイカオウレンも咲く。しかし、この付近にはもうシャクナゲはなかった。



少し登ると奥秩父主脈縦走路に着く。まだ少し残雪がある。少し登ると全く展望のない木賊山に着く。しかし、ここは三等三角点の山だ。立派な標石がある。

木賊山からの下りにはザレ場がある。ここが今日一番展望の良いところ。明日登る甲武信ヶ岳は間近に見え、金峰山と甲武信ヶ岳の間には、残雪を抱いた八ヶ岳が見える。



甲武信小屋に着くと、Fさん夫妻とKMさん、Wさんで甲武信ヶ岳山頂を往復してくるという。天気予報も良くなったので、明日で良いと思うが、今日登ってみたいというFさんにみなさん付き合ってくれたようだ。

残ったメンバーは、全員ではないが、いつものように小屋の前で、コーラスグループに変身する。他のグループも楽しそうだと仲間に加わり、夕食時間まで楽しく過ごす。

☆5月31日

甲武信小屋からは日の出が見えないと思っていたが、2階の部屋から真っ赤な太陽が見えた。



甲武信小屋

朝食を食べ、出発準備を進めていたが、KRさんの体調が優れないという。気持ちが悪くて動けないようだ。出発予定が1時間ほど遅れているので、ヘリを呼ぶことも考えたが、がんばって起き上がってくれた。

昨日一緒に歌を歌った男性たちと甲武信小屋のとくさんと一緒に小屋の前で写真を撮らせていただいた。

体調の悪いKRさんには空身で歩いてもらい、ザックの荷物をFさんと私で分担して持つこととする。ゆっくりペースながらも着実に登りはじめる。シラビソの林を抜けると展望が広がる。山頂部に少し雲を載せた富士山がよく見える。ただ、昨日よりは雲は多い。でも週間予報は雨だったので、すごく得をした気分だ。



富士山と黒金山

山頂に着くと、ほぼ360度の展望が広がる。金峰山は山頂部を雲に隠していたが、国師ヶ岳

はよく見える。これから向かう千曲川水源方面や男山、天狗山も見える。小川山も見える。ただ、八ヶ岳は雲に包まれていた。



国師ヶ岳、金峰山、小川山方面

山頂で集合写真を撮って下山にかかる。最初はガレ場を下ることになる。少し下ると道は良くなり、国師ヶ岳方面との分岐に到着する。ここから千曲川源流方面に下って行く。



甲武信ヶ岳山頂にてEさん撮影

奥秩父らしいうっそうとしたシラビソの原生林が続く。下って行くと千曲川の水源に到着する。冷たい水がわき出していた。ここから日本一長い信濃川を経て日本海へと注いでいる。長い旅の始まりだ。



千曲川水源

源流からわき出た水は、千曲川の西沢となって流れて行く。その流れにそって登山道は付けられている。途中で、キバナノコマノツメと名前のよく分からないスミレ(ミヤマスミレか?)がたくさん咲いていた。

KRさんには、KMさんとNさんが前後についてしっかり見守ってくれている。私は予約したタクシーの時間を考慮しつつ、急ぐ必要もあるため、少し前を歩く。しかし、風邪気味だった体調が悪化してきたのか、緩やかな下りもきつくなり、ザックが肩に食い込むように感じる。ナメ滝も過ぎてそろそろ林道かという頃、KSさんがザックを代わって持ってくると行ってくれたことがありがたかった。



林道に出ると、歩みも早くなる。タクシーの時間より30分前に毛木平に到着することができた。私は寒気がするので、直射日光の当たるベンチで横になって休む。

信濃川上で電車に乗ろうとすると、ホームで昨日、甲武信小屋で一緒に歌ったグループと一緒にいる。またどこかでお目にかかれることを期待して、それぞれ電車に乗り込んだ。日本一標高の高いところを走る小海線の車窓から八ヶ岳の風景を楽しみながら、帰途についた。

記：網干

《参加者の感想》

今日は手話講習の先生でもある、友人のWさんを誘って彼女が切望していた甲武信岳へ。行く前から登れるだろうか?と心配していた彼女は意外に余裕しゃくしゃくのようでシャク

ナゲのトンネルを楽しんでいました。

甲武信小屋前での宴、わたしはWさんを歌の場所に誘いました。聞こえないから、誘わないじゃなくて、その場を楽しんでほしかったからです。Aリーダーは笑顔で、歌いながら表現してWさんを笑わせてくれました。その思いや表現は彼女に伝わったようです。Aリーダーの表現がすごくわかりやすいといっていました。手話は表現だそうです。聞こえなくても見えなくても楽しいことはみんなに同じように伝わりますね。とても楽しい夜でした。

自然は人の小さな悩みや苦しみを静かに包み込んでくれている、そんなことを感じた山行でした。丸木橋を渡るときのEさんの歩み。笑ってはいけないけど、渡辺さんがそれを真似するので二人でうすくまって笑ってしまいました。あとで聞いたらこういう丸木橋を渡るのはEさんは苦手なんだとリーダーが若手のKくんに話していたそうです。Kくんはそれを聞いて、注意してみていたと思います。みんなで助け合いながら無事に完歩できた、そう思います。

わたしたちが2日間楽しく過ごせたのは皆さんのおかげです。甲武信岳、シーハイル(万歳)。最高でした。記：S.Kさん



甲武信ヶ岳2日間、お世話になりました。楽しかったです。しゃくなげのトンネル、千曲川、小鳥、お花達、見れて幸せでした。

甲武信ヶ岳は、カッコいいお山ですね。惚れてしまいました。

そして、皆さんもよくして下さいありがとうございます

うございました。Aさんのお歌も楽しかった。
また聞かせて下さいね^^

では、まずは、お礼まで。

記：S.Wさん

コースタイム

5/30 西沢溪谷入口(6:40) … 戸渡尾根

(10:05-10:20) … 木賊山(13:50-
14:10) … 甲武信小屋(14:15)

5/30 甲武信小屋(7:10) … 甲武信ヶ岳
(7:40-7:55) … 千曲川水源(9:10-
9:20) … ナメ滝(11:10-11:20) … 毛
木平(13:30)

※参加者不足のため岩戸山、遠見尾根(登山知識及び技術向上コース)を中止としました。

※雨天のため、岩登り技術講習会(鷹取山)、足和田山が中止となりました。

ハイキング報告

★第41回ふれあいハイキング(琴平丘陵)(4月29日)

参加者 会員(障害者6名、健常者15名)

淵寺とその上に護国観音が見えている。大淵寺は27番札所。裏手にはカタクリが咲くが、すでに実になっていた。

登っていくとヤマツツジが現れる。その先に、大きな護国観音が立っていた。耳を澄ますとキビタキの音が聞こえる。見晴らしも良く、秩父の町が見えた。

今回は、直前に参加者が増えたこともあり、21名の参加となった。初参加の方も5人、数年ぶりに参加の方もいて、とても新鮮なメンバー構成だった。

影森駅で自己紹介を行い、歩き始める。人数が多いとどうしても先頭から最後尾まで離れてしまうので、今回はトランシーバーを持ってきた。

ここから尾根の道を行くが、そこは完全な山道。岩場があり、鎖場やロープが張られたところもある。アップダウンもかなりある。これは、ハイグレードハイキングだ。



護国観音を下る

西武線の踏切を渡る。ちょうど電車が来たのでパチリ。踏切の向こうには、これから行く大



ギンラン

しばらく歩くと岩井堂に到着する。小さいが清水寺のように岩壁に立てられている。次は大仏座像と張り出したところであって高度感のありそうな座禅岩がある。続いて秩父修験堂。女の子たちが登ってきた階段を下りる。急だが手すりがあるので、問題なし。

尾根の道をさらに歩いていくと、東屋のある長者屋敷跡に到着する。ここで少し遅いお昼とする。なかなか険しいコースだったが、初参加の人たちも元気に登ってきた。今日は、本当に気持ちよい日だ。時折吹き抜ける風が心地よい。昼食後、集合写真を撮る。東屋で休んでいた若い人たちのひとりが、写真を撮ってくれるという。みんなでアインをして撮ってもらう。若者たちにも受けていたようだ。



長者屋敷跡からもまだ山道は続く。時折滑りやすいところも下る。大山祇神を過ぎると下りが続くようになる。下りきったところが山ノ神だ。子どもたちは川が大好き。河原に下りて、いつものように水遊び。M君も下りていったが、滑って転んだ時に手のひらをガラスの破片で切ってしまった。カットバンを持っていたJちゃんがすぐに貼ってくれるが、まだ痛いようで、しばらく大きな声で泣いていた。

ここからは林道を歩くだけだと思ったら、まだ1カ所の登りがあった。ため息が上がったが、

新緑がとてもきれいだった。



さらに広くなった道を歩いて行くと、羊山公園に到着する。羊が迎えてくれた。入場料を払って入ってみる。わずか20分ほどだが、きれいな芝桜の絨毯と高くそびえる武甲山が印象的だった。

ここからは、近道を通って西武秩父駅へ。急行は超満員だったため、もう1本遅らせて各駅停車で帰ることにする。

ちょっとハードなハイキングだったが、久しぶりに参加したJちゃんも楽しかったと言ってくれた。他のみなさんからも楽しんでもらえただろうか？
記：網干

コースタイム

影森駅(10:30)…大淵寺(10:45)…護国観音(11:05-11:10)…長者屋敷跡(12:25-12:55)…山ノ神(13:45-13:55)…羊山公園(14:20-15:10)…西武秩父駅(15:30)

★第42回ふれあいハイキング(赤城自然園)(5月10日)

参加者 会員(障害者1名、健常者7名)

な法人の事業として実施した。

すばらしい天気恵まれて、さまざまな花を楽しませていただいた。

今年度2回目のふれあいハイキングは、赤城山の麓にある赤城自然園へ。昨年、視覚障害者全国交流登山に協力していただいた後、秋に個人計画で訪れたメンバーもいたが、今回は正式

いろんなツツジが咲き、シャクナゲも咲き始めている。ユキザサやラショウモンカズラ、ツルハナシノブ、シライトソウ、クリンソウ、イカリソウ、チゴユリ、エビネなどが咲き、シラネアオイもまだ咲いていた。幻の花、クマガイ

ソウにも出会え、オキナグサも咲いていた。ハナイカダやハンカチノキも見られた。



セゾンガーデンの見晴台からは、榛名山もよく見えた。飛び入り参加の2歳児、T君も楽しそうに歩いていた。最後は疲れたため、お母さんやおばあさんに背負われて眠っていた。



M君は、今日も元気。笑顔いっぱい、喜んでいた。Kさんが、一緒に歩きながら「ツツジ」

や「カタクリ」を教えている。「この花は何ですか？」とKさんが聞くと「ツツジ」とちゃんと答えている。しっかり覚えたことに感激です。

昆虫館では、カブトムシの幼虫の大きさにびっくり。最後にセゾンガーデンで集合写真を撮る。



赤城自然園は、四季折々に、いろんな花や紅葉が楽しめます。また、季節を変えて訪れたいところです。

赤城自然園を出た後は、こもちの湯へ。1時間で250円というとてもリーズナブルな価格がありがたい。M君はここでもはしゃいでいた。

記：網干

コースタイム

赤城自然園入口(10:10)…昆虫館(12:20-12:50)…赤城自然園入口(13:30)

講習会報告

★岩登り技術講習会（鷹取山）（3月15日）

参加者 会員(健常者5名)

今週も天気予報とにらめっこだったが、降水確率も20%以下になってくれた。

今回は、他の講習会などで何度も鷹取山に来ているTさんの案内で岩場に向かう。いつも最初に登る子不知のカンテはすでに他の家族がロープを垂らしていたので、最初からビギナ

ーフェースに行くことにする。

ビギナーフェースと言っても、一番やさしい右側が5.5。いつも登る中間部は5.7。テンションをかけながらも、男性二人は登っ



たが、女性陣は上まで行くことができなかった。

もっと気持ちよく登ってから終わりたいという要望を取り入れ、午後は一番右側の5.5のフェースを登る。

別なロープを垂らして、懸垂下降も練習してもらった。登りにくい砂岩の岩場で、しかも垂直に近いため、かなりのバランスを要求されるが、それぞれに楽しんでもらえただろうか？



ピギナーフェース前にて

記：網干

個人山行報告

★蝶ヶ岳・常念岳(5月2日～4日)

参加者 会員(障害者1名、健常者6名)
会員外(健常者1名)

☆5月2日

さわやか信州号で早朝の上高地に到着する。ひんやりして気持ちが良い。朝食は、バス乗り場2階の食堂で摂る。温かいうどんがおいしい。

すばらしい天気恵まれて、上高地を出発する。いつもどおり、河童橋で使用前の記念写真。いつもながらの美しい穂高だ。

フィフィフィフィとさえずるゴジュウカラの声を聞きながら、徳沢を目指す。誰かが人生「五十から」と言っていたようだ。サルたちはどんどん勢力を広げているのか、上高地から見られた。数年前に来た時は、まだ芽吹きの状態の木が多かったが、今回は、新緑状態で葉を付けている木が多い。徳沢のニリンソウも、つぼみを膨らませているものが多かった。もうすっかり春だ。

徳沢からいつもながらの急登が始まる。登りはじめるとすぐに残雪が出始めたが、柔らかくアイゼンを付けるほどではない。標高2,000mの平坦地で休憩し、さらに登ってい

く。樹林が切れると乗鞍岳や御嶽山が見えるようになる。



長堀尾根を登る

長堀山は、夏は全く展望がないが、木が葉を落とし、3m近く残雪のあるこの時期は、木の間から穂高岳や槍ヶ岳が見える。妖精の池は、わずかに雪が溶けて池になっていた。池の周りの雪は溶けて流れた跡なのだろうか、幾筋もの縞模様が緩やかなカーブを描いている。

妖精の池を過ぎるとすぐに森林限界となる。雪原の向こうに、午後の日差しを受けた槍穂高連峰がすばらしい。蝶ヶ岳山頂で写真を撮り、ヒュッテに入る。夕方は、雲に夕日が遮られてあかね色に染まることはなかった。テント泊3人、小屋泊まり5人に分かれて、夜行バスで来た睡眠不足を解消する。



森林限界付近から見た槍穂高連峰

☆5月3日

今日は、5人で常念岳を往復する。3人は、蝶ヶ岳ヒュッテに残り、ゆっくり流れる時間を楽しむことにする。



日の出の頃の蝶ヶ岳とヒュッテ

常念岳往復は、テント組が多いが、私は弁当を食べて出発する。すばらしいご来光が浅間山と四阿山の間から昇る。槍穂高連峰もうっすらピンク色に染まる。ヒュッテ周辺や山頂には多くの登山者が出てきている。



浅間山とご来光

5時15分、ヒュッテを後に出発する。蝶ヶ岳の稜線は、登山道には全く雪がない。空には絹雲などが広がっているが、今日1日は好天に

なりそうだ。

蝶ヶに着くと、私に声がかかる。以前、山仲間アルプにいたHさんと同じ会にいる方だそうだ。その方は、蝶ヶで引き返して今日帰るといふ。こんなところで声がかかって驚いたが、お互いの無事を願って分かれる。

蝶ヶからは槍ヶ岳がとても近く見える。常念岳の方が槍ヶ岳に近いが、手前に西岳などの稜線があるため、槍の見栄えは蝶ヶからの方が良さそうだ。蝶ヶからの下りも最初は雪がなかったが、残雪が現れたので、アイゼンを付ける。早朝のため、残雪は堅くしまっていて、アイゼンが小気味よく決まる。



蝶ヶから見た槍ヶ岳

下りきると次は 2,592m ピークへの登り。このコースはアップダウンが大きい。振り返ると、乗鞍岳や御嶽山が見え、蝶ヶ岳方面もよく見える。遠くには、富士山や南アルプス、中央アルプスも見え、ハヶ岳も青いシルエットになって見えている。

2,592m ピークに着くと、常念岳がかなり近づいて見える。が、まだまだ遠い。大きく下って、次の 2,512m ピークに登る。この付近から残雪がなくなり、夏道となる。下ってきた人に聞いても雪はないという。アイゼンを外して登ることにする。

大きなピークを2つ越えてきた身には、この登りは応える。それでも、後ろを振り返ると穂高連峰や乗鞍方面の展望が元気を与えてくれる。そして、ようやく常念岳の山頂に到着する。

今まで見ていなかった横通岳が間近に見

える。そして大天井岳が見え、その右奥には、剣立山連峰も見えている。その右手には針ノ木岳が黒々とした三角錐で佇んでいる。さらにその右奥には、後ろ立山の山々が見えていたが、直に雲に隠れるようになった。大天井岳の左手には、野口五郎岳、水晶岳、鷲羽岳が続き、雲ノ平も一部見えている。その左には、三俣蓮華岳と思われる白い山が見える。そして、表銀座の稜線、その奥に北鎌尾根が見え、槍ヶ岳から穂高連峰への稜線へと続く、360度のすばらしい展望が広がる。



山頂にいと持ってきたトランシーバーからCさんの声が聞こえた。蝶ヶ岳の少し向こう側の最高地点にいるらしい。遮るものがないおかげで、4km 離れていてもつながった。



ここまでで体力を使ったせいかKさんが気持ち悪いようだ。ただ、休んだこととIさんが面倒を見てくれたおかげで、体調は戻ったようだ。山頂付近には、アマツバメやヒメアマツバメがたくさん飛んでいる。こんなに多くの群れを見たのは初めてだ。下手な鉄砲数打ちや当た

るで、槍ヶ岳とアマツバメのコラボ写真を狙って、数十枚もシャッターを切る。そのうちの数枚が何とか写っていたようだ。



集合写真を撮った後は、順調に下って行く。しかし、アップダウンの多いこの稜線はさすがに苦しい。それでも、予定時間より早く蝶ヶまで来た。天気が悪化しはじめ、槍穂高連峰にも雲がわいてきた。

蝶ヶ岳ヒュッテに着くと、Sさんたちが迎えてくれる。予定より1時間ほど早く戻ってくることができた。無事に戻ってきたことを祝って、ヒュッテで乾杯する。他の登山者の人たちと歌を歌って楽しんだ後は、早めに休むことにする。夜半、風が強くなり、テント組はあまり眠れなかったようだ。



☆5月4日

出発準備をして外に出るとかなり寒い。天気は悪くガスに包まれている。霧雨のような雨も降っている。しかも風が強い。今日が下山日で良かった。昨日だったら気持ちが萎えていただろう。

昨日はライチョウに出会えなかったが、今日の天気なら出会えるかもと思ったが、ライチョウの姿は見られなかった。それでも、今回は、ルリビタキやカヤクグリに出会い、ゴジュウカラ、コマドリ、ミソサザイなどの歌声を聞くことができた。徳沢を過ぎた沢沿いでは、来る時数個つぼみがあるだけだったニリンソウが、多くの花を開かせている。2日間暖かい日が続いたおかげで、ニリンソウもぐんぐん成長したのだろう。ヤマエゴサクやハシリドコロもたくさん咲いていた。



ニリンソウも咲き始めた

梓川のエメラルドグリーンの流れと、柔らかな新緑を楽しみながら、歩き慣れた上高地林道を上高地目指して歩く。タクシーの運転手さんの好意で沢渡の温泉に入ることができた。3日

間の汗を流し、さっぱりした気持ちで帰りのあずさに乗り込んだ。
記：網干



コースタイム

- 5/2 上高地(6:20)…徳沢(8:20-8:40)…長
崩山(14:05)…蝶ヶ岳(15:15-
15:25)…蝶ヶ岳ヒュッテ(15:35)
- 5/3 蝶ヶ岳ヒュッテ(5:15)…蝶ヶ岳(5:50-
6:00)…2590m(7:15-7:20)…
2512m(8:00-8:10)…常念岳
(9:55-10:45)…2590m(13:15-
13:20)…蝶ヶ岳(14:40-14:45)…蝶ヶ
岳ヒュッテ(15:30)
- 5/4 蝶ヶ岳ヒュッテ(6:35)…長崩山(7:15-
7:20)…徳沢(10:10-10:30)…上高
地(12:30)

その他事業報告

★1%支援制度に第9回自然と親しむ子ども山登り教室の支援金を申請しました

今年度も八千代市の1%支援制度に第9回自然と親しむ子ども山登り教室にかかるスタッフ交通費や諸経費の申請を行いました。昨年は、子どもたちの参加が非常に少ない状況でしたが、今年は4人の子どもたちが毎回参加する

予定です。八千代市にお住まいのみなさま、ぜひご協力をお願いいたします。お知り合いの方にもぜひお願いして頂きますよう、お願い申し上げます。

各種連絡事項

☆アルプの歌を覚えてください

昨年、作成した「山仲間アルプの歌」を、作曲した栗谷川さんと鎌田さん、柏樹さんが協力

し合って、一部修正しました。少し難しく感じるかも知れませんが、プロピアニストの

YOUTA 氏も良い曲だと評価した曲です。ぜひみんなで覚えて、当法人の行事の際や山で歌

いましょう。まずは、6月6日の定期総会で練習を予定しています。

会員情報

◎新入会員のお知らせ

3月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。(敬称略)
正会員

未成年会員

●退会のお知らせ

残念ですが、下記の方が退会及び休会されました。(敬称略)

伊藤哲哉、越後久美子、吉本由起子、佐藤アサ子、堀井昭夫、尾崎和子、関屋麟之助、中村和子、吉本陽騎、吉本朱里、相澤篤

編集後記

・理事長のつぶやき

23歳頃、会社の寮で寮委員長を務めたことがあります。ある時、食堂の急須がなくなりました。寮の管理人さんは見せしめとして翌日からお茶を出してくれませんでした。数日後に急須は、寮の門の外の排水溝で見つかりました。寮委員会を開催し、今後このようなことがあったら、犯人を捜し出すということになりました。次の寮総会で、私は犯人捜しなど絶対にしたくないので、こういうことがないようにお願いしますと寮生みなさんに伝えました。

犯人捜しには私は反対でした。なぜなら、捜されて見つかった時は反省したふりをしたとしても、見つからなければやってしまう可能性があるからです。大切なのは心から反省することだと思っていました。そのためには、許されること以外にないと思いました。許されて、おらかな心に包まれて、初めて自分の過ちを認

め、心から反省するのだと思います。その思いは今も変わりません。

数年前、ある方の送別会の帰りに私は電車の中で戻してしまいました。初めての経験でした。そのとき、一緒にいたある方が、汚物を拭いて、私を電車の外に連れ出してくれました。一言も攻められることはありませんでした。「飲み過ぎることが悪い」と言われても、「そういうことは十分に分かっていることだけど、みんなと飲めたことがうれしかったのです」と反論したくなります。ただ、黙って許されると、本当に申し訳なく思い、2度と失敗しないようにしようと思います。

許すことはやさしさだと思います。その大切さ、初心に戻って見つめ直してみたいと思います。

- 次回発行予定は、9月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで
〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208
NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝
TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係なく、みんなで山を楽しみたいね。自然は、誰に対しても平等だよ！！

